公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ステラサバイ児童発達支援
------	--------------

公表日 2024 年 12 月 1 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	その日の子どもの出席人数によって職員の配置を工夫しスペースを確保している	少し狭いと感じている職員もいるためスペースの使い方を工夫しました
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		利用定員内で運営しており、年度毎の卒業予定など考慮したうえで見学等を受け入れている	利用定員内で運営しているが、職員の急な病欠などにより人手不足を感じることがあるため、職員を増員する方向で調整している
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	入り口を工夫し車いすの利用者を受け入れている	車いすは大きいと入れないので受け入れる場合は改装は必要
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	営業時間中の換気・角にクッションを配置し毎日清掃を実施している	狭いと感じる職員が1名いるためスペースの使い方に工夫が必要
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		静養室を使いながら工夫している	同時に複数名静養室が必要な利用者が出た場合に工夫が必要
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		毎朝のミーティングで業務改善の効率を上げるために全員が参加している	長期休暇など朝から利用者を受け入れる場合はミーティングの時間管理の工夫が必要
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		申し送りや面談の際に評価アンケートの記入を依頼し、フィードバックしている	課題や改善すべき点を事業所で話し合っている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		毎朝のミーティングや個別の面談時に意見を吸い上げている	意見が食い違う際にはミーティングが必要
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	第三者の外部評価も検討中	わからないが2名いたためあらかじめ状況を全体に周知した
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		感染症対策や虐待防止などの研修を外部の媒体を使ってオンラインでの研修を実施している	アウトプットのために研修後の簡単なテスト等が必要だと検討している
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		誰でも閲覧可能なリタリコ発達ナビに掲載している	定期的な見直しが必要
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		児童発達支援管理者が個々の子どもごとに責任をもって実施している	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		定期的に利用者ごとに支援会議を実施して、子どもの最善の利益を考慮した会議を職員全員が参加して行っている	支援内容を都度確認し職員全員が同じ方向性で療育を行う確認の時間が必要
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援会議の際に計画書を基に話し合い、支援を行っている	支援内容を都度確認し職員全員が同じ方向性で療育を行う確認の時間が必要
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		毎朝のミーティングの内容や日々の子どもの適応行動などを職員が閲覧可能なチャットにまとめ共有している	書き込みの頻度に職員間で若干差があるため積極的に共有するように促している
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		個々の子どもごとに必要な支援を学校や保護者など幅広い関係者から情報収集し計画書に盛り込んでいる	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		職員全員が参加して行っている	職員が休みの際は実施できない
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		日々見直して新しいものや情報を取り入れている	担当の職員がある程度決まっているため、業務過多にならないようにローテーションが必要

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		個別課題と集団活動を取り入れて療育している	学校の宿題が多い利用者は宿題サポートの後の課題の量の調整が必要	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎朝のミーティングでその日のスケジュールや役割分担など確認している		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		療育後は児童発達管理責任者や管理者への報連相を義務化しており、共有すべきことは全体で共有している		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		その日の記録をもとにミーティングでの共有改善点を話し合っている		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		保護者とともに定期的な見直しや確認を行っている	忙しくなかなか対応できない利用者には電話やオンラインで対応することが必要	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		可能な限り児童発達管理責任者のほかにその児童に詳しい職員が同席している	送迎時間などに会議が重なると、事業所内が一時的に人手不足になってしまう	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	関係機関と日々連携し療育を行っている	連携の状況を職員全員に周知することが必要	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2	必要な場合、会議を企画し情報共有を実施している		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	小学校に上がる際に児童発達支援での様子等を報告し、保護者も交えるようにしている		
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	0	積極的に助言を仰いでいる	外部研修の頻度を増やす	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	9	0	可能な限り積極的に参加している		
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	1	療育センターと連携し、実際に事業所に来ていただき助言を頂くことがある		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	1	送迎時等にコミュニケーションをとり、企画がある場合に参加している		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		日々の保護者への送り時の時間を大切にしている		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	利用者は契約後も見学可能としている	実感が無い職員がいるので機会を増やす	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		見学や契約時、その他必要な際にもれなく説明を行っている。			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		こどものことを第一に考えた療育を保護者に伝え、保護者や家族、本人の意向を確認している	判断できない保護者にはわからないので任せますと言われることがある		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		大切な部分なので時間をかけて説明している			
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		日々子育ての相談に応じている			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	3	企画しているが集まらない場合がある	実感がない職員がいるので機会を増やす利用者から必要ないという意見も少なく無い
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情について迅速に対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		営業日毎日Instagramで活動等の様子を発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		職員の入職時、個人情報に関する誓約書を取り付け、厳重に扱っている	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		海外の利用者にわかりやすく説明し、書類も配慮したものを作成している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	機会がある際に参加している	実感していない職員があるため機会を増やす
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		定期的に研修や訓練を実施している	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		策定し、定期的に訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		利用者ごとに管理、把握している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		利用者ごとに管理、把握している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		定期的に安全管理を確認、支援している	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		避難場所等周知している	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		記録を残し再発防止に向けて日々ミーティング等で確認している	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		研修等を実施し、適切な対応を行っている		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		身体拘束について定期的に研修等で確認している		